

第72回岩手県高等学校総合体育大会プログラム・ポスター図案、本校から3名入賞

昨年度末に募集のあった今年度の高総体プログラム・ポスター図案の選考の結果、3校15作品の応募の中から本校生の作品が最優秀賞及び優秀賞に選ばれました。高体連事務局から届けられた表彰状と記念品を、6月23日（火）、校長室にて片岡校長から3名の生徒に手渡しました。

本来であれば、最優秀賞の作品は、5月末から6月上旬にかけて行われるはずだった今年度の高総体ポスター及びプログラム表紙絵として、多くの人の目に触れるはずでした。新型コロナウイルス感染拡大防止のために高総体が中止となってしまったため、そのような機会が失われたことは大変残念でしたが、岩手県高体連のホームページに、3名の作品とコメントが掲載されていますので、インターネット上でたくさんの方々に見ていただくことを願っています。

3名の入賞者と作品は以下のとおりです（コメントは、岩手県高体連HPより）。



最優秀賞 那須川 莉帆（3年）

「この作品は、日の丸カラーを象徴として描きました。そこには、『将来、日本を代表する選手になるかもしれないくらい実力のある高校生たちが競い合う大会であること』の意味が込められています。また、種目の動きのイメージによって白い絵の具の垂らし方を変えたり、いろんなアングルから選手を描いたりと様々な工夫をしました。」



優秀賞 小山 芽生（3年）

「カラフルな色使いで選手それぞれの個性や競技それぞれの個性を表現しました。また、背景の流れるような線によって試合時の躍動感を表現し、心電図をイメージした横方向の線によって会場の緊張感や選手の強い思いを表現しました。人物全てが同じ方向を向いているのは、学校や競技の違いに関わらず、選手全員が「勝利」という一つの目標に向かっていていることを伝えたかったからです。この作品が、選手の背中を押してくれることを願っています。」



優秀賞 大久保 杏優（2年）

「高総体に出場する選手の皆さんが発揮する力を、赤・青・黄の3色で表現しました。点描でバトンに力が集まっていくのを表現するのに苦労しました。バトンを中心にすることで、高総体に長い歴史があることを表し、これからも継承して行ってほしいという思いを込めました。」

<6月23日（火）表彰状と記念品の伝達の様子>



左から、優秀賞・大久保杏優（2年）、最優秀賞・那須川莉帆（3年）、優秀賞・小山芽生（3年）